

全国屈指の福祉文化先駆都市の 実現に向けて

岡山県総社市長

片岡 聡一



総社市は、岡山県南西部に位置し、温暖な気候と、市の中心を流れる高梁川の清流の恵みを受けた自然豊かなまちで、古代から吉備の国の中心として栄えてきました。古代の山城である鬼の城や、全国有数の古墳も数多くあり、また吉備路のシンボルでもある備中国分寺には年間多くの観光客が訪れます。

現在、総社市では、全国屈指の福祉文化先駆都市の実現に向け、様々な施策に取り組んでいます。

その施策について、3点紹介させていただきます。

まず1点目は「障がい者千五百人雇用」という施策です。平成23年に障がい者の雇用数1,000人を目標に「障がい者千人雇用事業」を開始しました。180人からスタートし、6年経過した今年5月に目標を達成しました。ただ、ここには「税投入の逆進性」の考えのもと、税の投入を行いました。ほとんどの税は居住地に関係なく同じ税率です。何の政策も持たず、税を分配すると、税は健常者や市の中心部に多く投入されます。しかし、障がい者千人雇用センターを設置し、ハローワークと協定を締結し、障がい者の就労をマッチングするとともに定着を支

援する体制を整備しました。さらに、就労継続支援A型、B型事業所が6年で0か所から18か所になりました。これに伴いサービス給付費など税の投入は上昇し、現在では単市で約2億7千万円を投入しています。障がいのある方々は全市民のうち4%であり、残りの大多数である96%の方にご理解をいただき、徹底的に投入しています。誰ひとり障がいを持たないと思って生まれてきた人はいません。だから、4%の人々のために全力投球をしないとイケないと思います。それが本来の意味で、本当に弱い立場の人のための政策、「税投入の逆進性」

という税投入の在り方だと考えています。

2点目は、平成23年4月からスタートした乗合タクシー「雪舟くん」の運行です。月曜日から金曜日までの平日、午前8時台から午後4時台までを1時間ごとに運行する予約型で乗合方式のデマンド交通です。5人定員の車両9台で市内全域をカバーし、運賃は1乗車300円です。買い物や通院などで出かけるとき、受付センターに予約すると、自宅などに迎えに行き、希望する目的地までお送りし、帰るときも予約すれば、商店などに迎えに行き、自宅までお送りするシステムです。年々登録者数も増加しており、周辺部の交通弱者の移動手段として定着しています。平成28年度は、1日平均乗車数が213人となっています。

3点目は、人口減少地域を再生するため、平成26年度から設置している「英語特区」です。対象の幼稚園、小学校、中学校が連携し、一貫性のある特別な英語教育を提供することにより、豊かなコミュニケーション能力と国際的視

野を身につけた人材を育成しています。現在は、健やかな体づくりを目的とした「体育特区」、音楽に触れる機会を増やし、専門的な技術と豊かな感性を養う「音楽特区」も設置しております。

また、今後は新たな取組としまして、「歩くことで健康づくり」をテーマに歩くことを習慣化し、健康に対する意識付けを行うことで、健康寿命の延伸、及び医療費の抑制化を図ることを目的とした施策や「ひきこもり」を重点課題と捉え、初年度の取組として、ひきこもりの人たちが、社会に一歩踏み出すための体制を整備する取組などを進めております。

全国屈指の福祉先駆都市を目指す総社市では、税投入の仕組みを変えて、弱い立場にある人々、地域に投入していく。この勇氣を持って取り組んだことにより人口は増えています。本当に優しい都市としてのアイデンティティを確立していくためにも、弱い立場、弱い地域に光を当て、さらに挑戦を続けます。

最後になりましたが、行政相談委員の皆様のもとには、日頃から、行政サービスに対する多様な相談、要望や意見等、また困りごとなど、様々な相談が寄せられていることと思います。

あらためて申し上げるまでもありませんが、相談者一人では小さい声であつたとしても、それを行政相談として橋渡ししていただくことにより、大きなパワーを持つこととなります。また、改善点を見出し、問題をできるだけ迅速に解決につなげていくことは、相談された方だけでなく、行政にとっても大変有意義なことです。

今後も、市民の方と私たち行政に携わる者との間をつないでいただき、身近で信頼されている相談窓口として、ご指導、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



「子育て王国そうじゃ」マスコットのチュッピー